

(平成 25 年 7 月 4 日 京都大学リサイクルシステム論第 15 講から抜粋)

京都市のごみ減量・リサイクルの取組

◆実績 ごみの総量をピーク時から約 4 割削減 ⇒ごみ収集・焼却経費の大幅削減

・平成 12 年度 82 万トン →平成 24 年度 48 万トン・・・西京極球場 13 杯分

・家庭ごみの有料指定袋制を導入(平成 18 年 10 月)

・プラスチック製容器包装分別収集の全世帯拡大(平成 19 年 10 月)

・民間業者が収集するマンションごみに、透明袋での排出を義務づけ(平成 22 年 6 月)

・ごみ焼却施設の削減

5 工場体制から 3 工場体制へ

1 工場当たり建設費用約 400 億円及び

年間運営費約 10 億円を削減

・ごみ収集体制※の削減 ※ごみ収集車の台数/日

18 年度 258 台から 25 年度 188 台へ

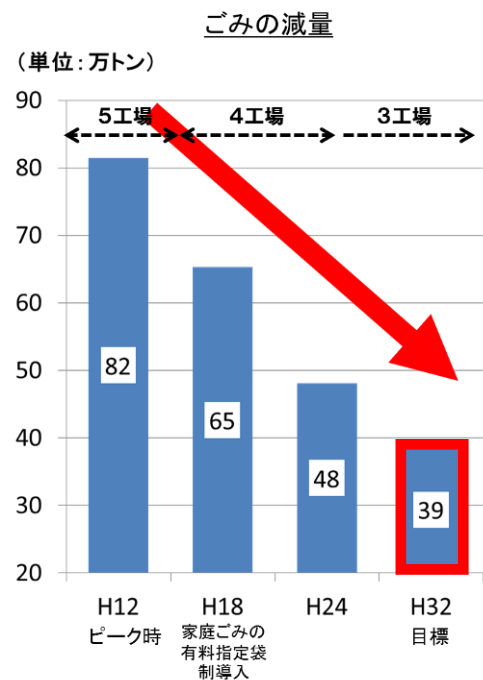
70 台, 27.1%の削減

ごみ収集業務の 50%委託を 27 年度に達成

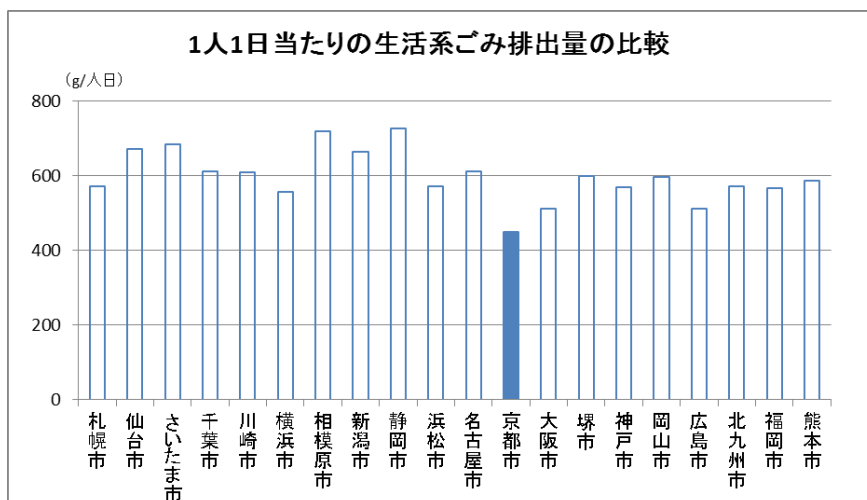
・ごみ収集経費の削減

18 年度約 94 億円から 25 年度 54 億円へ

約 40 億円, 約 43%の削減



・生活系ごみの排出量 449 グラム／人・日(平成 23 年度)は、政令市 20 市中で「最少」



最多 727g／人・日
(静岡市)

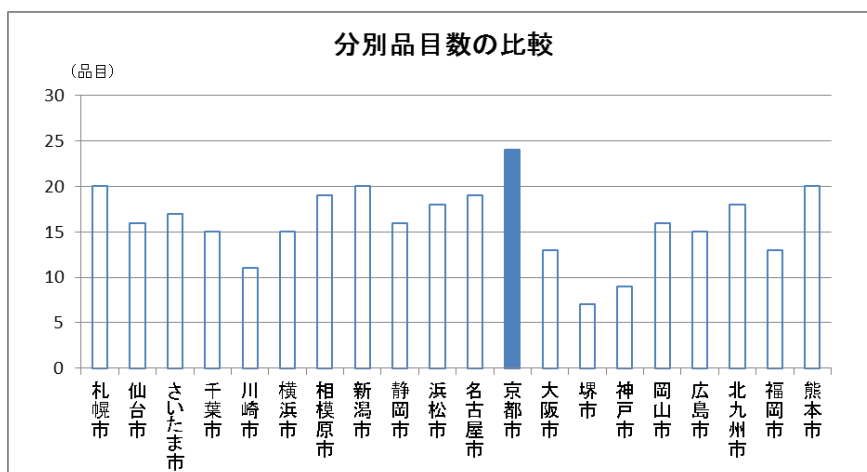
平均 598g／人・日

静岡市と京都市の差
は 278 g／人・日

< 出典 >

環境省「一般廃棄物
処理事業実態調査」

・定期収集, 申込制収集, 拠点回収の分別 24 品目は、政令市 20 市中で「最多」



< 定期収集 7品目 >

1.可燃 2.缶 3.びん 4.ペットボトル 5.小型金属類 6.スプレー缶 7.プラスチック製容器包装

※2,3,4と5,6は混合収集

< 申込制収集 1品目 >

8.大型ごみ

< 拠点回収 16品目 >

9.リユースびん 10.乾電池 11.紙パック 12.廃食用油 13.蛍光管 14.小型家電

15.記憶媒体(CD等) 16.小型二次電池 17.ボタン電池 18.使い捨てライター

19.水銀体温計 20.インクカートリッジ 21.古着 22.刃物 23.古紙※ 24.雑紙(ざつがみ)

※新聞, 雑誌, 段ボール

・燃やすごみの収集から最終処分までの経費は、45リットルごみ袋 1袋当たり 297 円※

※平成 23 年度

◆目標 ごみの総量をピーク時から半分以下まで減らす

・みんなで目指そう！ごみ半減！循環のまち・京都プランを策定(平成 22 年 3 月)

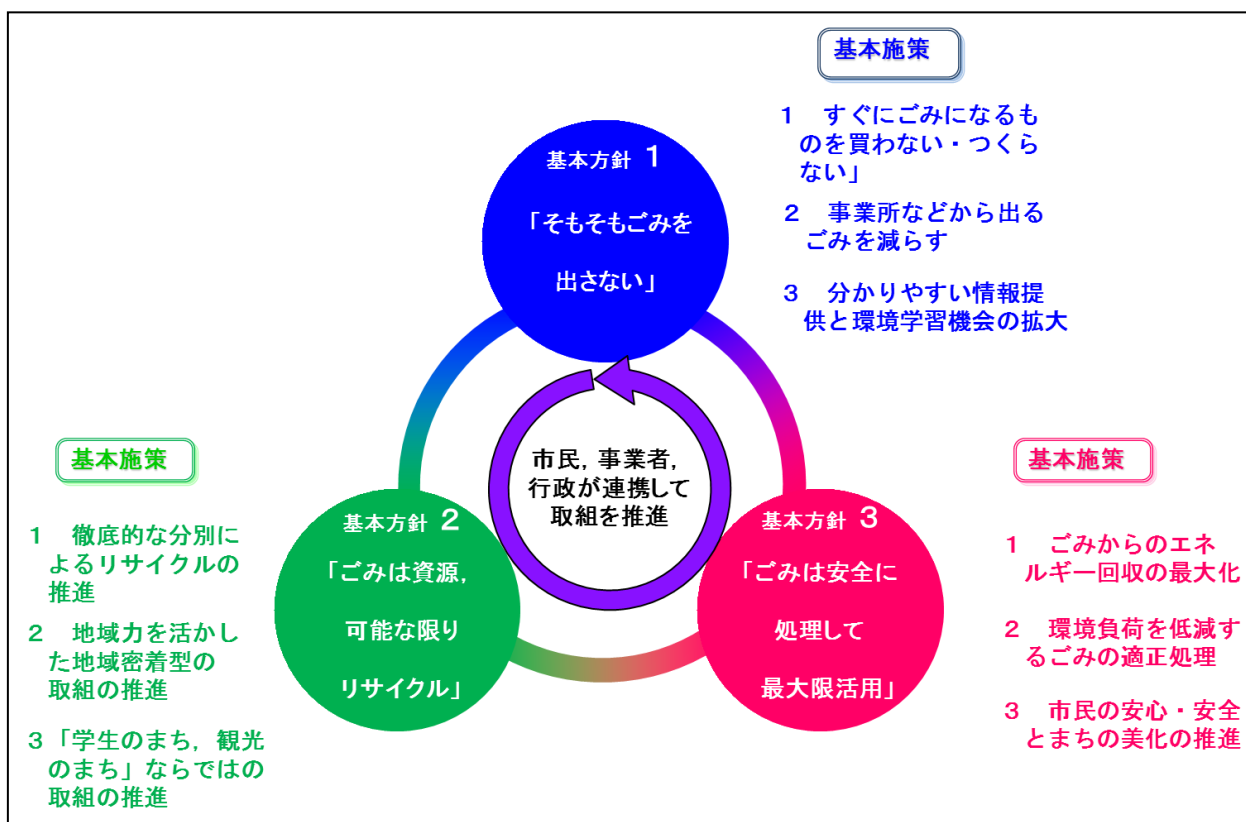
・ごみ量をピーク時から半分以下に減らす挑戦的な目標を掲げる。

平成 12 年度 82 万トン→平成 32 年度 39 万トン

※平成 24 年度 48 万トンから更に 9 万トンの減量が必要

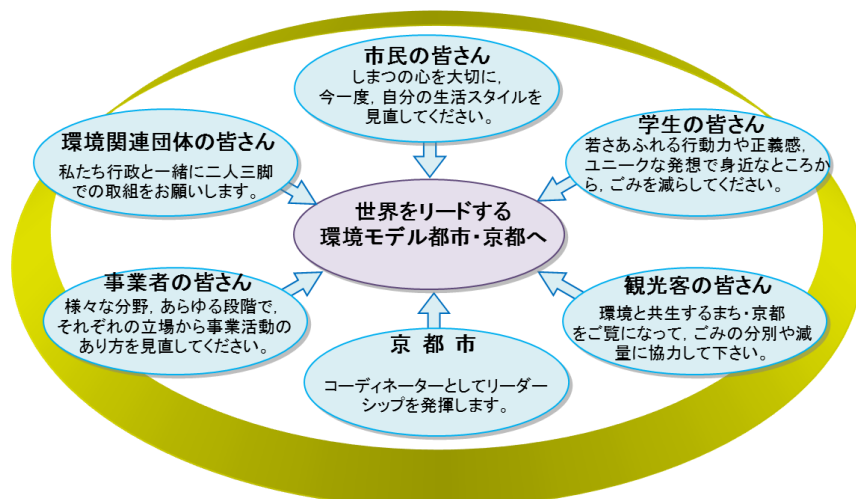


・目標達成のための 3 つの基本方針と 9 つの施策



・京都で暮らし、京都で活動し、京都で学び、京都に集う一人一人の皆さんが主役

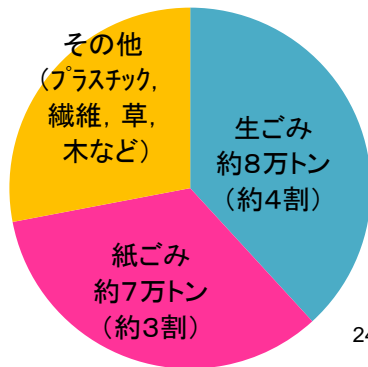
・社会全体の価値観を変え、大量生産、大量消費、大量廃棄のシステムまでも変えていく力に。



◆基本方針1「そもそもごみを出さない」

・家庭ごみの7割は、紙ごみと生ごみ！

リサイクル可能な紙ごみや、食べ残し・手つかず食品、水キリされていない生ごみが、燃やすごみとしてたくさん出されている。



24年度家庭ごみ(燃やすごみ)の内訳

・約3割を占める「紙ごみ」を徹底的に分別、リサイクル

25年度は包装紙等の雑がみを分別収集する社会実験を実施

26年度は紙ごみの分別リサイクルを全市に拡大

紙ごみは、とにかく分別！ 古紙回収へ！

新聞・チラシ 雑誌・書籍 ダンボール 紙パック 雑がみ※

※包装紙, ビラ, 新聞紙等のリサイクルできる汚れていない紙



・約4割を占める「生ごみ」を減量

「使いキリ」, 「食べキリ」, 「水キリ」の「生ごみ3キリ運動」を展開中



使いキリ	買すぎない、買ったものは使いキリ
食べキリ	もったいない!とにかく食べキリ
水キリ	スリムに水キリ

・エコまちステーションを各区役所・支所内に開設

地域における総合的な環境行政の窓口

こんな時は、「エコまちステーション」にご相談ください。

- ◆資源ごみの出し方, 分別方法を知りたい。
- ◆使用済みてんぷら油回収, コミュニティ回収, 生ごみ減量の助成制度を知りたい。
- ◆蛍光管, 電池, 古紙等の資源物の回収拠点を知りたい。
- ◆自治会で一斉清掃をするので清掃道具を貸してほしい。 など

・KYOTO エコマネー

参加店舗でマイボトルを使って飲み物を購入 →1 ポイント(50 円相当)

参加店舗に衣料品を持ち込む →衣料品 1kgごとに 1 ポイント(50 円相当)

エコマネーを 10 ポイント貯めると, 500 円相当の商品と交換できる



～脱ペットボトル～ エコな「京の水道水」。ペットボトルと比べてみると

環境にやさしい	製造・輸送にかかるエネルギー消費量は, 約700分の1
家計にやさしい	料金は, 約400分の1 <small>ミネラルウォーター約1リットルと水道水約 400 リットルは同じ値段</small>
安全・安心	水質検査項目は, 約3倍 <small>ミネラルウォーター18 項目, 水道水 50 項目</small>

(参考) 原油輸入価格 1 リットル 67 円 →ガソリン小売価格 1 リットル 151 円(うち税金 61 円)

ペットボトル水 0.5 リットル →100 円

・大規模事業所のごみ減量

「廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」に基づき, 減量計画書の提出義務, 立入調査及び指導。24 年度提出件数 2,025 件, 提出率 91.9%

・食品関連事業者のごみ減量

「廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」に基づき, 減量計画書の提出義務, 立入調査及び指導。24 年度提出件数 43 件, 提出率 100%

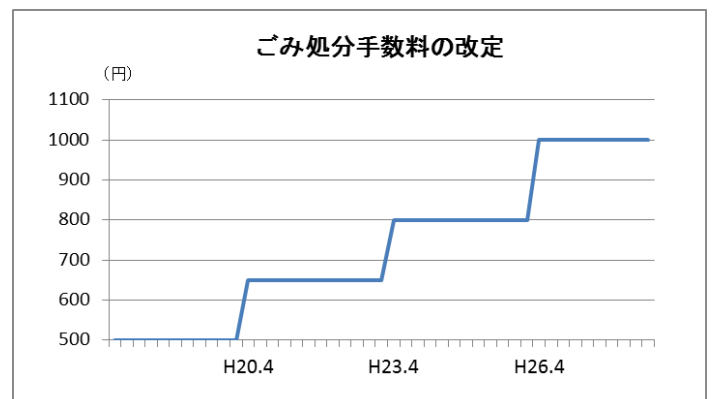
・業者収集ごみ処分手数料を改定

～20 年 3 月 100 kgまでごとに 500 円

20 年 4 月 100 kgまでごとに 650 円

23 年 4 月 100 kgまでごとに 800 円

26 年 4 月 100 kgまでごとに 1,000 円



- ・事業ごみの出し方や減量手法等を分かりやすく紹介
事業ごみ減量に関するニュースレター「**ごみゅにけーしょん**」,
「**廃棄物の適正処理ガイドブック**」を発行



◆**基本方針 2 「ごみは資源、可能な限りリサイクル」**

- ・定期収集、申込制収集、拠点回収の分別 24 品目は、政令市 20 市中で「最多」(再掲)

- ・有害・危険ごみ等の**移動式拠点回収**

リユースびん、紙パックなどの資源物、塗料・溶剤、薬品類など、
有害・危険ごみ等を対象に、日ごとに場所を変えて回収

- ・**マンションごみの減量**

業者がごみ収集を行うマンションが市内に 4,329 棟、約 12 万世帯(25 年 3 月末)

・・「ごみ置き場が小さく、毎日収集が必要」、「マンション建設時の地元との協定」など
透明袋での排出を義務づけ(平成 22 年 6 月)

マンション管理者や住民に対し、ごみの分別啓発や管理者講習会を開催

- ・京都三条会**商店街**及び**許可業者**が参加する**ごみ減量ワークショップ**を開催

古紙共同回収(ダンボール、新聞、雑誌及び雑がみ)が実現

- ・**せん定枝や刈草の資源化**

造園業者や民間資源化施設とワークショップを開催

資源化の方法や民間資源化施設の受入基準等を説明するガイドブックを作成

- ・**大型ごみのリユース**

リユース可能な家具を修理し、展示販売するモデル実験

7 月 7 日(日)、京都市役所前フリーマで展示販売(9 月、12 月、26 年 3 月にも実施)

- ・**イベントのエコ化**

「京都市エコイベント実施要綱」を策定(平成 22 年 10 月)

市認定エコイベントに対して、リユース食器の導入費用を助成

市主催のイベント(各区ふれあいまつり等)はすべてエコ化(リユース食器を使用)、率先実施

京都学生祭典(約 18 万人が集う)は、リユース食器の導入により、ごみ量がピーク時の

10 分の 1 に削減(10 トン→1 トン)

祇園祭・鉾町のエコ化。リユース食器を用いた「エコ屋台村」が登場

～昨年度の試験出店では、通常の夜店と比べ約 9 割のごみを削減



◆基本方針3「ごみは安全に処理して最大限活用」

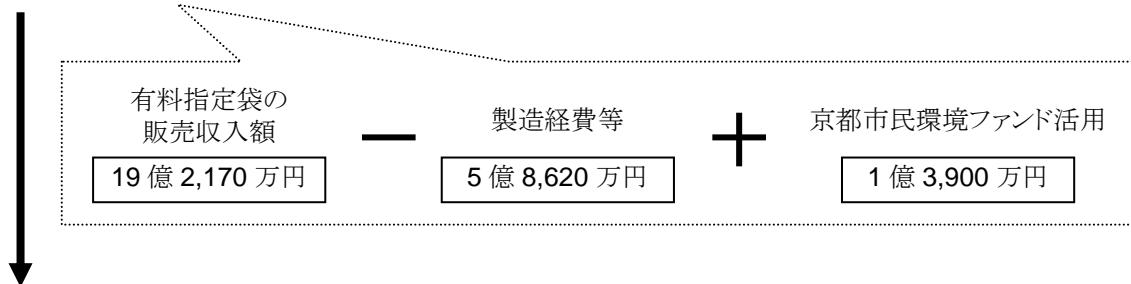
- ・ごみ焼却施設を削減し、クリーンセンターは5工場体制から3工場体制へ
- ・クリーンセンターでは、ごみ焼却時の熱を利用して発電を行い、センター内で使用するとともに、余剰電力を電力会社に売却
- ・南部クリーンセンター第二工場の建替え(後述)

—家庭ごみ有料指定袋の収入は、3つの分野に関する事業に役立てています—

(平成25年度)

- ・家庭ごみ有料指定袋からの収入の使い道

14億7,450万円



(内訳)

- ・ごみ減量・リサイクルの推進 6億9,360万円 ※25年度当初予算額
 - コミュニティ回収を実施する団体に助成
 - リユース食器の利用などイベント等のエコ化の推進
 - マイボトル持参と衣料品回収行動を促進するKYOTOエコマネーの活用 など
- ・地球温暖化対策 6億6,520万円
 - 太陽光発電システム, 太陽熱利用システム, 蓄電システムの設置費用を助成
 - 地域のエコ活動を支援する「エコ学区」事業
 - 全市立小学校で「こどもエコライフチャレンジ推進事業」を実施
 - 街路樹整備事業 ～花の道づくり, 道路の森づくり～
 - LED道路照明灯の設置(更新分) など
- ・まちの美化の推進 1,570万円
 - カラスや風によるごみの散乱を防ぐ防鳥用ネットの貸出し
 - 不法投棄に困っている地域団体に対して監視カメラを貸与 など
- ・京都市民環境ファンドへの積立 1億円
 - 環境に資する中長期的な活用のための計画的な積立



この事業は
家庭ごみの有料
指定袋の収入が
使われています



美しい地球を次世代に引き継ぐため、
これからも家庭ごみ有料指定袋の
収入を有効活用していきます！